

第15回全国高等学校情報教育研究会全国大会 (オンライン大会)



小松一智

東京都立小平高等学校

全高情研とは

2022年8月9日～10日に第15回全国高等学校情報教育研究会全国大会(オンライン大会)が開催された。

全国高等学校情報教育研究会(以下、「全高情研」と表記)は、2003年に高等学校において教科「情報」が設置されたことを受け、2008年に発足した、各自治体等の情報教育等研究会から構成される組織である。2022年9月現在、政令指定都市や私学の研究会を含め、全国33の研究会が加盟している。

自治体によっては情報科教員の採用がされないなど都道府県によって温度差はあったが、全高情研は

発足当時から全国の高等学校における情報教育の研究推進ならびに会員相互の研鑽をはかることを目的として、毎年8月に全国大会を開催してきた。

ここで、全15回の基調講演のテーマを振り返る(表-1)。基調講演のテーマを見ていくと、学習指導要領が変わるタイミングなどでは、学習指導要領に関するテーマが取り上げられ、それ以外の年にはその年に話題になっているテーマが取り上げられるなど時代を反映している様子が見てとれる。また、開催地にちなんだ方に講演をいただいていることが多い。第15回大会(2022年度)の基調講演は、2022年度の高校入学生から情報I、情報IIが始まること、2022年度入学生が卒業するときから大学

表-1 基調講演テーマ一覧

回	開催地	講演者	講演テーマ
第1回	東京	斎藤尚樹氏(文部科学省初等中等教育参事官)	新しい学習指導要領と情報教育
第2回	茨城	永井克昇氏(文部科学省初等中等教育局視学官)	新学習指導要領と情報科
第3回	石川	永井克昇氏(文部科学省初等中等教育局視学官)	新学習指導要領について
第4回	大阪	兼宗進氏(大阪電気通信大学教授)	情報の科学的な理解を深める学習法
第5回	千葉	永野和男氏(聖心女子大学教授・日本教育工学会会長)	情報教育の未来をデザインする—新学習指導要領の先にあるもの—
第6回	京都	西垣通氏(東京大学名誉教授・東京経済大学コミュニケーション学部教授)	文と理をむすぶ情報教育—基礎情報学からのアプローチ
第7回	埼玉	前刀禎明氏((株)リアルディア代表取締役社長・元アップル米国本社副社長兼日本法人代表取締役)	輝く自分を創るセルフ・イノベーション
第8回	宮崎	西野和典先生(九州工業大学大学院情報工学研究院教授 日本情報科教育学会副会長)	高等学校の教育改革と情報科教育
第9回	神奈川	金田賢伊知氏(国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 セキュリティ・情報化推進部)	宇宙開発とIT～ITが宇宙開発を支え、宇宙開発が生活を変える～
第10回	東京	萩原兼一氏(大阪大学大学院情報科学研究科特任教授)	文部科学省 大学入学者選抜改革推進委託事業「情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発」
第11回	秋田	堀田龍也氏(東北大学大学院情報科学研究科教授)	教育の情報化の動向と今後の展望
第12回	和歌山	鈴木寛氏(東京大学教授・慶應義塾大学教授)	AI時代の教育
第13回	オンライン	鹿野利春氏(国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官)	新しい情報科に向けて準備をしよう
第14回	大阪 (オンライン)	水野修治氏(大学入試センター試験問題調査官)	大学入学共通テスト 新科目「情報」～サンプル問題等とそのねらい～
第15回	東京 (オンライン)	中山泰一氏(電気通信大学大学院情報理工学研究科教授)	情報I、情報II、そして情報入試～全高情研とともに～

入学共通テストで「情報科」が課せられることから「情報I、情報II、大学入学共通テスト」にちなんだテーマでお話しいただいた。

第15回大会での新たな取り組み

第13回愛知大会、第14回大阪大会は対面実施を目指しながらも、新型コロナウイルス感染症流行の情勢によりオンライン開催に切り替えた。しかし、今回の第15回大会は、当初からオンライン開催を前提とした大会である。オンラインで開催するものの、できるだけリアル大会に近い雰囲気を出すため、新たな取り組みを実施した。パブリックビューイング会場の設置と、ポスターセッション発表(表-2)・企業展示の実施である。

パブリックビューイング会場として交通の便を考え、工学院大学新宿キャンパスをお借りした。残念ながら、直前で新型コロナウイルス感染症の感染者数が増加していたこともあり、自治体によってはパブリックビューイング会場への出張が認められず、パブリックビューイングへの事前申し込みに対し、実際の参加者が少なかったのが悔やまれる。なお、会場が分散すると運営が煩雑になるため、大会の運営場所も工学院大学新宿キャンパスとした(図-1)。



図-1 分科会等運営の様子

表-2 ポスターセッション

番号	発表題目
P-1	高校教科「情報」の来歴と未来
P-2	共通テスト対策用の予想問題の作成
P-3	情報科教科書に現れる用語の変遷—情報ABCから情報I—
P-4	高校生がWeb上のデータをスクレイピングするWebAPIの提案

ポスターセッション発表・企業展示はZoomのブレイクアウトルームを利用して実施した。ポスターセッション発表4本、企業展示5社であった。

オンライン大会で大会冊子を販売する方法として第14回大会で導入したAmazonのプリントオンデマンド販売サービスが好評だったため今回も継続してAmazonでのオンライン販売を行った(図-2)。今後、リアル開催になったとしても大会当日に現金を扱わなくてもよく、在庫を抱える必要もないオンライン販売は継続していくだろう。

第15回大会での発表一覧

第15回大会では、Zoomを使った口頭発表(ライブ発表)が23件、動画発表(オンデマンド発表)が15本と昨年に引き続き、多くの発表が行われた。ここに口頭発表と動画発表の題目一覧を示す(表-3、表-4)。今回は、過去に実施したことのある若手枠を設け、さまざまな方に発表してもらえるようにした。

情報Iは、「(1)情報社会の問題解決」「(2)コミュニケーションと情報デザイン」「(3)コンピュータとプログラミング」「(4)情報通信ネットワークとデータの活用」の4つの領域から構成されている。今回



図-2 大会冊子のオンライン販売
<https://www.amazon.co.jp/dp/B0B67XKMWZ>



の発表では、学習指導要領の各単元に関する内容が多いのは当然であるが、「学習環境」、「評価」「1人1台端末」など、学習指導要領以外の授業に関する内容も多く、さまざまなことに興味を持たれていることがうかがえる。教員採用試験を分析することで、教員に求められている知識・技能を明らかにする内容、情報Iだけでなく、学校全体としてのカリキュラムマネジメントに言及する内容など、教員に

向けてのメッセージもあった。

一方で、基調講演は前述のとおり「情報入試」に関するテーマでお話いただいたが、口頭発表・動画発表では「情報入試」に関する内容が非常に少なかった。まだ、大学入学共通テストに関するサンプル問題が出ている段階で、実際の問題については想像するしかない。新たに「情報I」がスタートしたこともあり、まずは地に足をつけ、授業をしっかりと実施してい

表-3 口頭発表(リアルタイム)

番号	発表題目
R1-1	情報I「データの活用」におけるSTEAMライブラリー動画教材を活用した授業実践
R1-2	動画と文字を重ね合わせたコンテンツを制作する授業実践
R1-3	こんな情報デザインの授業やってみた～情報デザイン×知的財産権×プレゼンテーション～
R1-4 ★	都民による事業提案制度を活用した、情報社会の問題解決学習
R1-5	問題解決を情報デザインで行う授業実践
R1-6	教科書から見た著作権教育の中高・高大連携の課題と提案
R1-7	動くピクトグラム制作を通じたアクセシビリティの学習
R2-1	成人のプログラミング学習のハードルとその越え方
R2-2	データ分析の学習を支援するオンラインデータ分析学習教材の提案
R2-3	数学科と連携した情報の授業実践について
R2-4 ★	アイデア実現に重点を置きその過程でプログラミングを学ぶ micro:bit 作品制作実習の実践報告と分析
R2-5	情報Iを見据えたプログラミング教育～学習者の独自設計を可能にさせたミニチュア配膳ロボットのプログラミング教材の開発と実践と評価～
R2-6	表計算・プログラミング両面による統計分析指導実践省察
R2-7	感染者数をシミュレーションした実践事例
R2-8	専門科目「情報学基礎」におけるRaspberry Pi実習の取組
R3-1	「情報I」のその先へ
R3-2	すべての高校生に「基礎情報学」のエッセンスを—これからの情報教育のあるべき姿に関する一考察—
R3-3	情報科教員として採用される際に重視される知識・技能の検討
R3-4 ★	「情報I」のデータ活用を意識した問題解決型授業の実践
R3-5	探究活動をサポートするアンケート作りの授業
R3-6	高校生が自分事として捉えて学ぶ「情報I」の実践—情報I入試を意識した導入の授業—
R3-7	1人1台端末によって「できるようになったこと」と「できなくなったこと」
R3-8	高等学校「情報I」における「授業」と「評価」

★は若手枠

表-4 動画発表(オンデマンド発表)

番号	発表題目
O-1	高等学校における探究学習の教材開発と授業実践—教材をどのように作るか—
O-2	感染シミュレーションとデータ処理
O-3	データベース指導実践「オフラインRDB・オンラインRDB」比較省察
O-4	情報科の先生はポートフォリオを作って公開しよう!
O-5	教科書から見た著作権教育の中高・高大連携の課題と提案
O-6	ポートフォリオを活用した情報Iの問題解決
O-7	情報Iと1人1台端末を活用した授業実践の報告と展望について—一般教室で文房具のように端末を活用する授業を目指して—
O-8	ICTのデメリットを補う習得型AL(普通授業実践編)3年間の実践から新たにみえてきたこと
O-9	提出課題の改善点を具体化する相互評価の取組
O-10	教員南極派遣プログラムにおける情報科教育の可能性
O-11	4年間の情報Iの教材開発とその実践結果
O-12	中等部1年生の変化・中等教育に求められる「情報」の在り方について～GIGA世代の小学生を迎えて感じること～
O-13	「情報I」で大切にしてほしいこと
O-14	情報Iのプログラミング学習環境に関する考察
O-15	「情報I」における情報モラル教育の実践とその考察

る段階なのだろうと推測される。

第16回大会に向けて

第15回大会は昨年以上の参加申込がなされ、盛会のうちに終わることができた。大会終了後のアンケートでは、大会全般について「とてもよかった」「よかった」が9割を超えた。開会前後でWebページへのアクセスがしづらい状況になってしまったものの、このような回答をいただいたことは実行委員(図-3)一同嬉しく思う。

第16回大会はどのようにすれば現地開催が可能

になるのか模索していく大会となる。また、オンライン開催の良さ、対面で行う良さをどのように融合させていくかも考えながら新たな大会を作っていくことになるだろう。皆様にもぜひ、ご協力いただきたい。

参考文献

1) 全国高等学校情報教育研究会, <https://www.zenkojoken.jp/> (2022/9/11 閲覧)

(2022年10月2日受付)



小松一智 (正会員) komatsu@komatsu-no-site.net

2005年情報科教諭として東京都に採用。現在、東京都立小平高等学校指導教諭、東京都教職員研修センター認定講師等。



図-3 運営会場で運営にかかわった実行委員たち

